

「神林長平論：コミュニケーションと意識の表現」論文要旨

文学研究科 日本語日本文学専攻

白鳥克弥

本稿は、SF作家神林長平（一九五三～）の作品における、コミュニケーションの様相が描き出す人間意識の表現を論じたものである。

神林長平は一九七九年に第5回・ハヤカワSFコンテストにて「狐と踊れ」で佳作入選デビュー。以後、現在に至るまでSFを専門に書き続けた作家である。

主に取り上げる作品は『アンブローケン アロー 戦闘妖精・雪風』（二〇〇九）と『ぼくらは都市を愛していた』（二〇一〇）である。『アンブローケン アロー』は神林を代表する「雪風」シリーズの三作目であり「リアル世界」と呼ばれる特殊な空間を舞台に会話劇が繰り広げられる。『ぼくらは都市を愛していた』は情報震と呼ばれる電子情報を破壊する現象によって崩壊した近未来を舞台に仮想現実空間〈都市〉を巡る事件を描く。これら二作に共通する要素は人間の世界認識の枠組みである「現実」とその外部にある真の「リアル」の対比である。

『アンブローケン アロー』は「リアル世界」において、戦闘機の内部に生じた意識体である雪風に操られるパイロット深井零の姿を描く。しかし零は雪風に操られながらも、自律した意識を持った人間としての自己像を示そうとする。そのような雪風と零との関係は、作者と登場人物に対応する。作品は、登場人物の作者に対する自律的な意思の存在証明を志向する「登場人物の自律性」を主題とする。しかし、その自律性は現実の作者である神林長平によって著述されたものである以上、「登場人物の自律性」は本質的に成立しえない。

そこで登場人物というモチーフを追求するために「兎の夢」（一九八五）と帝王の殻（一九九〇）に着目した。これらの作品に登場するPABは、言語によって主の人格を複製した人格像を形成する。その人格像は身体を伴わない遠隔コミュニケーション（電話、ネットワークなど）の場で、主のコミュニケーションを代行する「代理人」となる。

そのコミュニケーションの場は、近年の作品ではインターネットをモチーフとして描かれる傾向にある。「自・我・像」（二〇〇七）から「いま集合的無意識を、」（二〇一〇）、『だれの息子でもない』（二〇一四）にかけて、神林のインターネット観は徐々に変化することになるが、それをある種のコミュニケーションの「場」とする観点は共通している。

これらのPABとインターネット空間という「代理人」と「場」によって、コミュニケーションは構造化される。コミュニケーションは人間身体が進入不可能な「場」で行われ、人間は言語によって形成した人格像である「代理人」にコミュニケーションを代行させるしかない。

そのようなコミュニケーションの構造は「雪風」シリーズの、コミュニケーションと人間との関係性という主題を浮き彫りにする。一作目の『戦闘妖精・雪風』（一九八四）は、コミュニ

ケーションを戦闘と読み替えることで、神林のコミュニケーションの基本的な構造と主題を踏襲したものとなる。二作目の『グッドラック 戦闘妖精・雪風』（一九九九）ではコミュニケーション構造の多様化と、人間と機械の新たな関係性が描かれることとなる。『アンブローケンアロー 戦闘妖精・雪風』（二〇〇九）では人間と機械との関係が逆転し、人間である零が「代理人」となる。作品は零の代理人としての意識の在り方を描いたものとなる。

「代理人」＝人間の意識主体という観点を踏まえると『ぼくらは都市を愛していた』は、都市というモチーフを核として、重層化した意識の在り方を描いた作品として位置付けることができる。この作品における都市は、人間が身体ではなく観念を追求することが可能となる人工環境として位置付けられる。そうした観念性を追求した結果が〈都市〉という観念＝意識のみで生きることが可能となる仮想現実空間である。

その〈都市〉に生きる人々は、インターネット上でのコミュニケーションの「代理人」であるアバターという人格像と、現実という人類の〈共通認識の場〉における「意識」という人間本来の人格像に対応するものである。この〈都市〉の人々、アバター、そして意識はいずれも虚構的な人格像であると同時に、コミュニケーション空間において他者と接し、また世界の認識するという人間の生の実際を担う働きを持つ。

以上のことを踏まえれば、「登場人物の自律性」は単なるメタフィクション表現ではない。登場人物は、虚構的な人格像であり、その意味では人間の意識に通じるものである。「登場人物の自律性」は、人間の意識が持つ自律性を表現したものであり、意識それ自体の持つ自明性（「我思う、ゆえに我あり」）によって証明されるものである。人間存在の実際的な活動を司る意識の在り方を「登場人物の自律性」という主題は描き出したものであり、それは虚構的な存在としての人間の生の実際の表現となるのである。